



持続可能な 事業・貢献活動 報告書

Sustainable
Development
Report

2017

株式会社 山田組

目次

はじめに	持続可能な自社の発展を通して、社会全体のSDGs達成をめざす	02
1	企業活動(Product) 持続可能な自社の生産活動	03
2	啓発活動(Education) 持続可能な発展のための教育	08
3	社会貢献活動(CSR) 持続可能な貢献活動	10
おわりに	さまざまなSD活動が事業継続性を確かなものにしてくれることを願って	15

はじめに

持続可能な自社の発展を通して、社会全体のSDGs達成をめざす

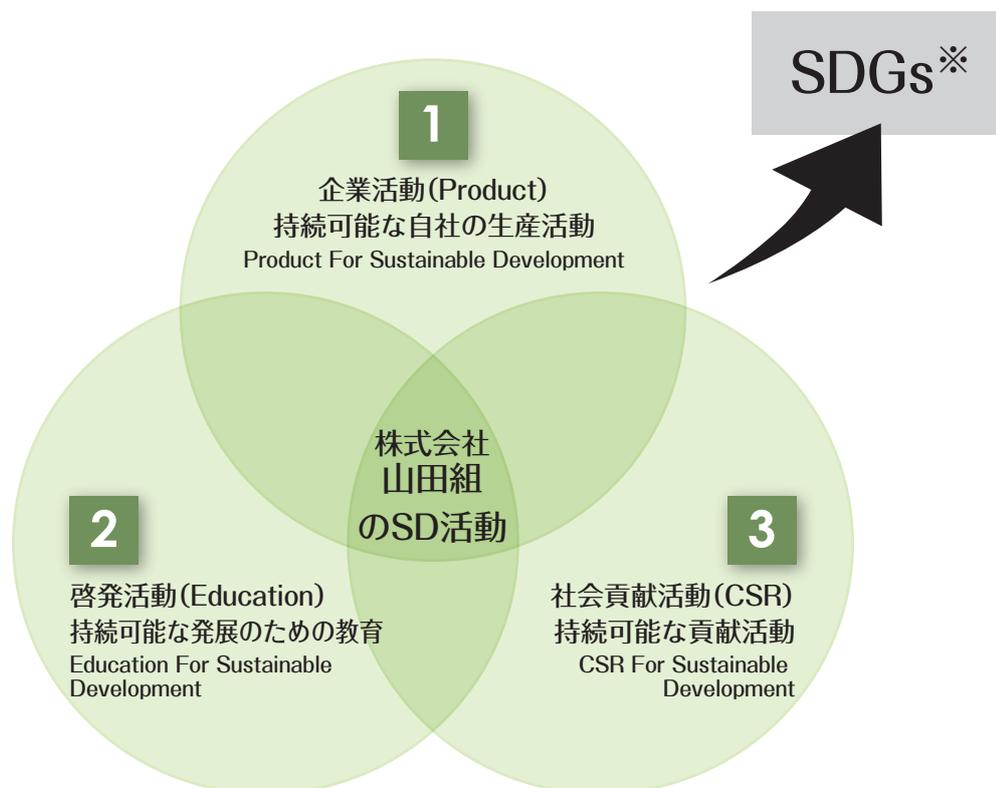
株式会社山田組 代表取締役
山田 厚志



遅くなりましたが、2017年4月から1年間の当社の「持続可能な発展をめざす活動」の記録をまとめましたので、ご一読いただければ幸いです。

当社が考える「あるべき企業像」は下図に示す通りです。すなわち、「環境に配慮した生産活動を実践していく」ことと「次世代に持続可能な社会実現のための考えや実践を伝えていく」こと、そして「自社の強みや特徴を活かして社会に貢献していく」ことの3つの活動を通じて「自社の持続可能な発展を確かなものにしていく」企業が当社の目標像なのです。そしてその活動の継続がまさに社会のSDGs実現をめざす実践にほかならないと当社は考えています。

中小建設業者としてできることは限られていますが、高い理想を掲げて今年も一年間頑張って取り組んだ活動の記録の一端をどうぞご覧ください。



※持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴールで構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、日本を含む先進国も積極的に取り組んでいます

社業全体の環境配慮

当社は1954年創業の名古屋に本社を置く土木建設業者です。河川整備、土地造成、上下水道布設等々、一貫して名古屋の「まちづくり」に貢献してきましたが、特に1970年代以降は「パイプラインの更生工法」にいち早く着目して、その普及拡大に努めて今日に至っています。

「パイプラインの更生工法」とは、上下水道管をはじめガス管や電力管、農業用水管など供用中のさまざまなパイプの維持更新を目的とした特殊技術です。

通常、古くなったパイプは掘り起こして取り換えをする工事が一般的ですが、発生する掘削土や掘り起こした旧管の廃棄処分など環境に与える影響は無視できないものがあります。

一方、管更生工法の場合には地中に埋設された既設管をそのまま利用し、必要最小限の土木工事のみで管内面に特殊な部材やホースを挿入して新たなパイプを形成するため、極めて環境に優しい工法といえます。次項では、当社の施工する管更生工事の一端をご紹介します。

こうした管更生工法の導入のみならず、当社では同業他社に先駆けて環境ISOを取得して、本社はもちろん各所に展開する施工現場や仮設事務所で環境負荷低減活動に積極的に取り組んでいます。その成果の一つとして名古屋市が制定する「エコ事業所」のさらに上位の「優良エコ事業所」認定を取得しています。次々項ではその申請内容の一部を転載します。

当社の手掛ける管更生工事の現場紹介

1. ホースライニング工法の施工現場（富山市内）

ホースライニング工法は、地中の既設管内に特殊なシームレスホース部材を高圧空気で反転挿入して機能復元を図るとともに耐震性も向上させます。



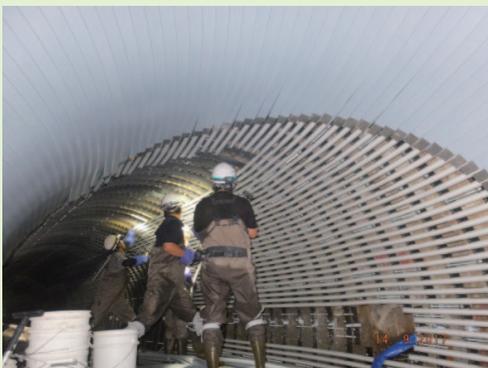
発信側・到達側二か所を掘削ピットから車載式の反転挿入機で施工の様子

2. フローリング工法の施工現場

フローリング工法は、管内に入った作業員が特殊な取り付け金具と長尺の板状の部材を接合させて既設管内に新しい管路を形成します。



ボックス形状の既設管路内にも新たな管路を形成できます(長野県内の接項現場)



直線管路だけでなくカーブした既設管内にも新たな管路を形成できます

名古屋市認定「優良エコ事業所」としての取り組み例の紹介

上述したように当社は本業の施工現場において環境負荷低減に取り組んでいますが、本社業務も含めた温室効果ガス排出量の削減にも努めています。

こうした取り組みが評価されて名古屋市の「優良エコ事業所」に認定されていますが、2018年度はさらにその中でも特筆すべき活動に取り組む企業に与えられる「優良エコ事業所表彰」獲得にチャレンジする予定です。

表1 温室効果ガス排出量 実績

	基準年度(平成17年度)	昨年度(平成29年度)	削減率
温室効果ガス排出量	122.7t - CO ₂	80.1t - CO ₂	34.2%

名古屋市認定「子育て支援企業」としての取り組み例の紹介

「優良エコ事業所」同様に、当社は名古屋市から「社内外の子育て支援に積極的な企業」としての認定を受けています。

社内の取り組みとしては子育て中の社員に有給休暇を追加で付与する「子ども特別休暇制度」や家族や友人らと行楽に出かける際に補助金を支給する「ファミリーホリデー補助金制度」などの仕組みを運用しています。

表2 子ども特別休暇取得日数実績

年度	年間取得日数(日)	取得人数(人)
平成29年	32	10

表3 ファミリーホリデー補助金制度利用実績

年度	取得人数(人)
平成29年	7

社外での取り組みとしては地域社会の子ども達に対して建設業の特徴を活かした支援活動を展開しています。2017年度の主な取り組みとして「名古屋市港区・港楽小学校の全学防災学習の支援活動」と「名古屋市中川区・近鉄伏屋駅高架工事現場見学会の企画・運営活動」の様子を以下に掲載します。



港楽小学校「全校防災教室」の様子



伏屋駅高架工事現場見学会の様子

「都市農業」と「都市公園指定管理」の業務紹介

当社は名古屋市に本拠を置く元請建設会社として、上述した各種取り組み以外にも様々な名古屋市の施策に協力して事業化しています。本稿ではそのうちの「名古屋市内の遊休農地を活性化して展開する都市農業」と「名古屋市農業文化園・戸田川緑地の指定管理」の二つの業務について、担当者からの報告を掲載します。

「東谷山・天空のアグリパーク」と「農業文化園・戸田川緑地」2つのフィールドを活用した活動

当社は「2016愛知環境賞優秀賞」を受賞し、引き続き、多くの皆様のお力を借りながら、『持続可能な環境・農業・防災体験学習の実践』に取り組んでいます。その一部をご紹介します。

【東谷山・天空のアグリパーク】

概要	<p>山田組自社農園「東谷山・天空のアグリパーク」は、名古屋市守山区にあり、2012年10月名古屋市で初めて利用権設定(農地の賃貸契約)された農地です。ブルーベリーや梅など果樹を中心とした生産販売を行っています。また「都市農業」を担う農園として、農業体験や食育・食農学習ができる場としても活用しています。面積は約7500m²あります。</p>
農業の取り組み	<p>梅やブルーベリー、ラズベリー、甘夏などを販売しました。イベントとして6月「梅摘み取りと梅シロップ作り体験」、8月「ブルーベリー摘み取り体験」を行いました。さらに守山生涯学習センター主催の講座として6月の「梅摘み取りと梅シロップ作り体験」を行いました。</p>
環境の取り組み	<p>8月に山田組が主催するなごや環境大学共育講座第2回「学び合い・育ち合う、食・農・防災の欲張り講座～おかげさまで13年連続開講中！～夏の燻製作りとブルーベリー摘み取り体験」を当園で開講しました。テーマ「微生物」とし、人は微生物を、食べ物を加工するために利用したり、農業では発酵肥料などに利用し、一方段ボールでできる燻製作りでは、燻煙が微生物を抑制したり、つまり微生物をコントロールできることが大事であることを紹介しました。11月に守山生涯学習センター主催の講座として、「秋の土づくりと燻製作り講座」を行いました。当園の収穫物のない時期に初めての試みで、同じく微生物をテーマとした講座を行いました。</p>
防災の取り組み	<p>当園は名古屋市の「防災協力農地」に登録しています。防災協力農地とは、地震災害が発生した場合に、市民の避難空間としての活用と、災害復旧用資材置場を確保することを目的とした名古屋市の制度です。</p> <p>当園は万一の場合一時的に避難する場として、あるいは防災キャンプができるようなサイトとしても利用できるよう、災害用トイレ(テントトイレ)を整備しました。イベント時に来園者が利用できるようにし、災害に備える活動を今後も行っていきます。</p>
ボランティアの受入	<p>当園は収穫体験だけでなく、梅やブルーベリーの剪定、ブルーベリーの鉢植え替えなどの四季を通じて農作業体験できる場です。特に、名古屋市農業センターが支援する援農ボランティア団体「なごやか農楽会」(守山支部会員約35名)の皆様は毎週のようにかわるがわる来ていただきました。ボランティアの方々の目的ややりがいはそれぞれですが、当園でのボランティアの皆様の力はたいへんありがたく、この農園だからこそできる活動を中心に作業を行っていただきました。他にも名古屋市障害者支援課に仲介していただいた障害者就労体験など、農業体験等で多くの方にご来園いただきました。</p>



当社の農園「天空のアグリパーク」とブルーベリー狩りの様子



当社が指定管理の一員を務める「名古屋市農業文化園・戸田川緑地」の様子

【農業文化園・戸田川緑地】

概要	<p>名古屋市南西部にある名古屋市の公園です。当園は市民の憩いの場であるとともに、農業公園として農業や環境への理解を深めて頂く役割と、立地を活かした健康とスポーツの里としての役割を担うよう整備されています。面積は約29haあります。</p> <p>2014年より名古屋市みどりの協会とともに指定管理者として取り組んできた4年間を、2018年3月末で無事終わりました。2018年4月からは再び指定管理者として、名古屋市みどりの協会と株式会社オオバとの3社で管理運営を担うこととなりました。新たな管理運営の目標像として「農とみどりのわくわくマイパーク」を掲げ、さらに発展させるべく取り組んでまいります。</p>
農業の取り組み	<p>体験水田や農園では就農したい方や家庭菜園したい方が学ぶ場として、あるいは食育・食農学習できる場として子供も大人も学べるよう、様々なニーズに応じています。</p> <p>親子講座「田んぼの楽校」や初級・中級者向け野菜作り講習会、5月とだがわまつりでのタマネギ収穫体験や10月秋まつりでのサツマイモやラッカセイの収穫体験、近隣小学校の田んぼ体験やダイコン、ジャガイモの種まきや収穫、中学校の職場体験、小学校の社会科見学など様々な方を対象とした農業体験・食育・食農学習を行いました。</p>
環境の取り組み	<p>戸田川緑地の「とだがわの森」や「とだがわ生態園」は生き物観察や環境教育の場として活用されています。芝生広場には外来種であるメリケントキンソウが増えており「駆除大作戦」として、来園者とともに駆除する取り組みを行いました。外来の動植物が多くなってきたとだがわ生態園は、本来の目的にあった姿に戻すべく、ビオトープ・ネットワーク中部(会長:長谷川明子氏)の方々とともに、とだがわ生態園上中流部の池干しならぬ“川干し”を行いました。ビオトープ管理士だけでなく、一般募集した参加者、親子などにも環境調査に参加していただきました。</p>
防災の取り組み	<p>名古屋市地域防災計画の中で広域避難場所に指定されており、防災イベントを行うにも最適な公園です。なごや防災ボラネットや認定NPO法人レスキューストックヤード、名古屋建設業協会他のご協力のもと行った「子ども防災デイキャンプ」や「親子講座パパ・ママ防災教室」は、防災について共に学ぶ機会となりました。また職員ととだサポ(ボランティア)が3月のさくらまつりオープニングイベントして「炊き出し訓練」を行いました。</p> <p>これまでにこの公園にはなかったこれらの防災の取り組みは、山田組の強みである防災活動やネットワークが活かされ、高い評価を受けています。</p>
ボランティアの受入	<p>職員とボランティアが公園を共に支える仕組みとして、2016年4月に立ち上げたボランティア団体「とだがわサポーターズ(愛称とだサポ)」は、初年度より登録者も増え、農・環境・防災にかかわる活動を一緒に行いました。月2回程度の活動ではありますが、共に公園を支えていくという「サポーターマインド」を生み、お互いに支えあう関係を築いています。</p>

東谷山・天空のアグリパーク

名古屋市守山区
上志段味東谷2110-20

※最新情報はブログ
「天空のアグリパークだより」
<http://berry-good.sblo.jp/>



農業文化園・戸田川緑地

名古屋市港区
春田野2丁目3204

※最新情報はホームページ
<http://bunkaen-todagawa.jp/>



(株)山田組アグリ事業は今後も積極的に農業・環境・防災活動に取り組んでいきます。ご期待ください。
アグリ事業担当 平田朱美

建設会社にできること

「建設業」という仕事は民間の住宅などを作る「家づくり」と、公共空間の整備をしていく「まちづくり」の大きく二つの分野に分けることができます。株式会社山田組は、この二つの分野のうち主に「まちづくり」を担う会社です。

「まちづくり」には、「環境の保全」と「快適さ、便利さの実現」、そして「命を守る」という3つの大きな使命があります。そして当社はこの使命を持続的に担っていきたいと考えており、そのことを未来を担う子どもたちにしっかり伝えたいと願って取り組む活動が当社の「環境出前講座」です。

環境出前講座の実践…3つの講座メニュー

1. 動物たちの命を守る「エコブリッジづくり」

「どぼく」というのは「土」と「木」という字からできています。地球にある「土」と「木」を使って、「人間に優しい環境をつくる」ことが目的の仕事ですが、地球を傷つけて人間にだけ便利な環境を作っているだけでは地球にも他の動植物にも優しくありません。「これではいけない」と考えた人たちが実行しはじめた「新しい時代の土木」について、分かりやすい講義と紙を使った「エコブリッジづくり」の実習を通じて楽しく学びます。



2. 「ストローハウス工作」で学ぶ安心・安全なまちづくり



当社のある東海地方は南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、「命を守る強いまちづくり」が必要になると同時に、建設にかかる公共コストを抑える意味でも「一人ひとりが自ら命を守る」という意識と行動の必要性が叫ばれています。



そこでこの講座では土木建造物の基本となる「かすがい」(斜めの柱)の重要性を「ストロー工作」の体験を通じて学んでもらいます。ただ構造を学ぶだけでなく、仲間と力を合わせて、「より丈夫で独創的なストローハウス」の「建設」を競い合う楽しい授業の実現をめざしてもいます。

3. 「もったいない」をかたちに…チャレンジ！面白エコ工作

「まだ使えるのに、もったいない」「なにか違う使い方はできないかな」…誰にでも生まれるそんな気持ちを「かたち」にして、「物を大切にする」「再利用を工夫する」などの気持ちを育てる楽しい工作体験を子どもたちに提供することをめざします。また、共同制作の活動を通して「計画する」「準備する」「役割分担をして作業する」「仲間と協力して完成させる」などの「ものづくり」の基本の体得もめざしています。



一年度に 20 件前後の出前講座を実施

No.	月日	曜日	時間帯	対象	人数	内容(概要)
1	5月25日	木	13:10-13:55	名古屋市立中学校2年	45	ストローハウス
2	5月25日	木	13:10-14:40	名古屋市立中学校3年	57	エコブリッジ(割り箸)
3	6月2日	金	8:45-10:25	名古屋市立庄内小学校5年	116	ストローハウス
4	6月6日	火	13:35-15:15	名古屋市八社小学校5・6年	179	エコブリッジ(紙キット)
5	7月29日	土	14:00-15:30	弥富市東部児童館1~6年	30	エコ工作
6	7月31日	月	14:00-15:00	弥富市さくら児童館1~5年	50	エコ工作
7	8月1日	火	14:00-15:00	弥富市白鳥児童館1~6年	20	ストローハウス
8	8月3日	木	14:00-15:30	名大学童保育所 ポピンズアフタースクール1~6年	30-40	エコブリッジ(紙キット)
9	8月22日	火	15:00-16:30	長久手市市が洞児童館1~6年		ストローハウス
10	8月23日	水	10:00-11:30	愛西市勝幡児童館1~6年	60	エコブリッジ(紙キット)
11	9月2日	土	10:00-11:50	北名古屋市子ども会連絡協議会	150	ストローハウス
12	9月30日	土	10:00-12:00	鶴舞小学校人数は予定	100	ストローハウス
13	10月14日	土	10:00-12:00	大宝小学校人数は予定	100	ストローハウス
14	11月4日	土	10:30-11:45	津島中央児童館小学生	30	エコブリッジ(紙キット)
15	11月18日	土	10:30-11:00	春日井市交通児童遊園1~6年	20	エコ工作
16	11月25日	土	13:30-15:00	豊明市ひまわり児童館1~3年	60	エコ工作
17	2018年1月9日	火	14:00~	西端児童クラブ	50	エコ工作
18	2018年1月17日	水	午前中	港楽小学校		ストローハウス
19	2018年1月19日	金	10:50-11:35	春日井市立石尾小学校4年	37	エコ工作
20	2018年3月7日	水	9:00-11:40	高蔵高校	32	ストロー
21	2018年3月21日	水	10:00-11:30 13:30-15:00	とだがわこどもランド	60	エコ工作
22	2018年3月29日	木	13:30-14:30	碧南市棚尾児童クラブ	80	エコブリッジ(紙キット)

はじめに

「企業は社会的存在」。この当たり前の自覚に加えて、土木建設業を営む当社は地域社会との健全な関わりなくして円滑な施工はできませんから、より一層積極的に貢献活動に取り組むことは半ば義務のようなものだと思っています。

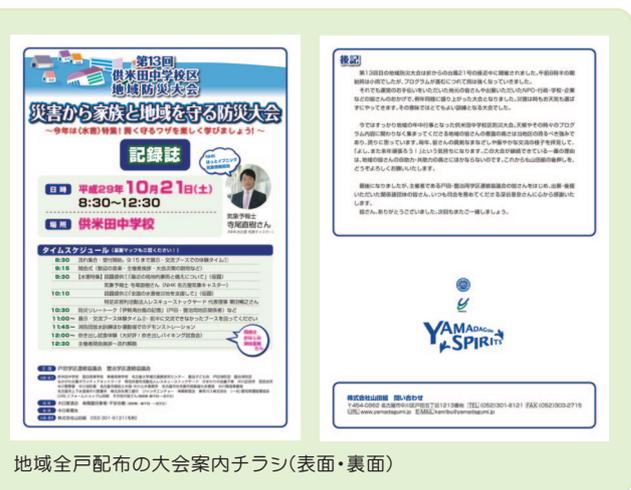
2017年度も多彩な活動を展開しました。その一端を以下に紹介します。

供米田中学校区地域防災大会の企画・運営

例年このレポートで紹介していますが、当社の地元である名古屋市中川区供米田(くまいでん)中学校区の第13回地域防災大会の企画・運営を担当しました。

13年目の今回は全国各地で多発する豪雨災害に焦点を当てて「水害から命と地域を守る」を主テーマに据えてプログラムを組み立てました。

具体的には、特集企画としてNHK名古屋放送局で活躍される気象キャスターの寺尾直樹さんを迎えての講演と全国各地の被災地支援に尽力されるNPO法人レスキューストックヤードの栗田暢之代表理事による体験談を実施しました。



地域全戸配布の大会案内チラシ(表面・裏面)



ほかに、例年ご協力いただき警察・消防・行政・消防団・災害ボランティア団体・地元の水害被災体験者・企業・銀行・新聞販売店・中学生・

高校生の皆さんらによる発信活動やブース出展、さらには好評の「避難所で抹茶体験」コーナーや炊き出し体験・試食会なども開催して、集まったおよそ400人の参加者に楽しみながら防災・減災の知恵を学んでいただきました。



なごや環境大学「山田組共育講座」の企画・実施

「受講者と共につくり、学びあう体験講座」をスローガンに掲げて、13年目の「山田組共育講座」を文字通り受講者の皆さんと一緒に作り上げました。

5月20日 第一回講座「最新の防災学習施設を見学に行こう！」

講師：なごや中川災害ボランティア
講座概要：京都市市民防災センターまで出かけて防災・減災について学びました。



8月19日 第二回講座「食・農を学ぶ講座」～山田組の農園で収穫体験を楽しみましょう～

講師：山田組社員
講座概要：東谷山フルーツパークに隣接する当社農園「天空のアグリパーク」でブルーベリーの収穫体験と簡単燻製作りを体験しました。



10月14日 第三回講座は、残念ながら雨で中止となりました。

10月21日 第四回講座「供米田学区地域防災大会に参加しましょう！」

講師：NHK名古屋
気象キャスター寺尾直樹さんほか
講座概要：弊社がサポートする地元の地域防災大会への参加型講座を実施しました。



防災活動について

株式会社山田組・株式会社ナックプランニングでは、近い将来発生する確率が高いとされる「南海トラフ巨大地震」に備えて、地元名古屋市中川区の供米田(くまいでん)・豊治学区で地域のみなさんと共に防災訓練を13年連続で行ってきました。ここ数年、当社のそのような取り組みが評価され、企業や大学、行政から防災に関する業務が増えてきています。

ここでは、ナックプランニングのSD活動であり業務ともなっている社会貢献活動の一部をご紹介します。

イベント（企画・運営、印刷物・グッズのデザイン等）

近年関わらせていただいているのが、「備える！中日サバイバルキャンプ」(2015年から毎年開催／中日新聞社主催)(初年度の名称は「レッドベア中日サバイバルキャンプ」)や、「防災・減災ピクニック」(2016年から毎年開催／日本損害保険協会主催)です。

「備える！中日サバイバルキャンプ」は、防災の技を親子で学ぶ1泊2日の体験型キャンプです。今年度は鞍ヶ池公園(豊田市)で行い、約100名が参加しました。開催場所周辺の中日新聞販売店の方々やNPO、企業、学生ボランティアと連携・実施し、中でも学生ボランティアの方には“次世代の防災の担い手”育成として、事前にレクチャー講習も行っています。



ダンボールシェルター作り



実際にダンボールシェルターで野宿



水消火器的当て



受付



夕食作り



今年度のスタッフ

「防災・減災ピクニック」では、名古屋大学減災館で地震について学び、その後名古屋都市センターで、昼食(非常食)を取り、「なごや」のまちづくりについて考え、親子で楽しめるワークショップを行います。移動(バス)時にマップを使い、「なごや」のまちの歴史・地盤などを学びます。マップについては、対象が親子なので子どもから大人までの幅広い世代が“防災”について楽しく学べるデザインを心がけました。こちらも、防災の次世代育成の一環ともなっています。



減災館内の見学



教材キットで実験



ルートマップ制作

ボードゲーム

地震発生後に寸断された道路の啓開をシミュレーションするボードゲームをデザイン・制作しました。(開発は名古屋大学)これは、行政の防災担当者を対象に作られたもので、市町村を越えた協力が必要な時にどうするかをゲーム形式にしたものです。ルールが少し複雑なので、デザインの力を生かして、いかに分かりやすく伝えるかを考え、何度も試作を重ね、現在ワークショップ等で使用されています。



ゲーム制作

グラフィック(パンフレット、チラシ等)

愛知県内で耐震改修に積極的に取り組む「あいち耐震改修 N倍プロジェクト」(愛知県建設部)のキャラクター、チラシ、のぼり等のグッズ、ホームページ(現在制作中)を担当しました。また、チラシには親しみやすいキャラクターを使い、漫画で読みやすくしました。市民の方に“耐震の必要性”を周知し、耐震診断や耐震改修をお薦めするアイテムとなっています。



チラシ制作(表)



(裏)

名古屋商工会議所 環境分野における女性活躍推進ワーキンググループ

当社の平石が、名古屋商工会議所主催の「環境分野における女性活躍推進ワーキンググループ」の一員として各種の勉強会や視察に参加、環境分野で働く女性の活躍推進について検討を重ねています。

その多様な活動の中でも、本年度は6月に「未来の子どもたちに 美しい自然を残したい」 100年後の子どもたちのためにSDGsをテーマにしたエコ博(リーフウォーク稲沢/主催ユニー(株))の出展のための企画を担当しました。

当日は間伐材を紹介するパネルの作成や、間伐材を利用した「エコお守り作り」のワークショップを行い、エコ女の活動やSDGsの周知を行いました。

今後も女性目線での「環境活動につながる発信」を続けていく予定です。



エコ博(ワークショップの様子)



↑間伐材を利用した
「エコお守り作り」



パネル展示(パネル制作を担当)



エコ・クッキング(調理の様子)



エコ・クッキング「ベジデコサラダ」

なごや環境大学 環境デーなごや「ワカモノビレッジ」の企画・運営

当社の平石が、なごや環境大学の実行委員として「ユースチーム」のチーム代表として所属し、各種の環境活動の企画や運営に関わっています。

特に、毎年9月に行われる環境イベントの「環境デーなごや」では、大学生ボランティアとともに、「ワカモノビレッジ」という名称でブース出展を行うとともに、環境に関わる次世代の育成やその環境づくりに力を入れています。



今年度スタッフ



野菜ハンコでエコパック作り



ペットボトル風鈴作り



廃材を利用したペン立て作り

管理部 ナックプランニング 東出

おわりに

さまざまなSD活動が事業継続性を 確かなものにしてくれることを願って

従来から当社は「日本一、社会貢献活動に取り組む建設業者」をめざしています。中小企業ですから過大なコストや手間をかけられません、建設業の強みを活かした多彩な活動は十分に可能だと考えて、日々実践した記録がこのレポートの内容です。

もちろん最も大切なことは、本業を通じた環境貢献であり地域貢献だと思っています。その取り組みの一端については一章をご覧ください。

また、次世代を担う人々に向けた活動も極めて重要だと捉えています。「生物多様性の保全」「低炭素社会」「災害に強い街づくり」、そして「都市農業」などについて楽しく学ぶ体験を通じて、一人でも多くの子どもたちが建設業に関心を示し、さらには従事してくれることを願って取り組む活動については二章で紹介しました。

最後に地域の人々と広く深く接して建設業が担う役割や業務内容について知ってもらい理解を深めてもらう取り組みについては三章にまとめました。

おかげさまでそれぞれ多くの皆さんからの評価を得て、その期待を糧に継続的に取り組んでいるものばかりです。

当社はこうした「本業」「次世代」「地域社会」を対象としてさまざまなSD活動が、世の中の「社会責任調達」の気運と相まって発注者の「受注者選定評価」の大きな要素となることをかねてから強く望んでいます。

現在の公共調達の仕組みでは「子育て」や「障害者雇用」「エコ事業所」など一部の貢献活動のみが業者評価項目に挙がっています。その弊害は「評価項目に挙がった活動のみを目的に行う」業者が横行することです。これでは広く社会に貢献しようとする企業の健全な意欲を損なうばかりでなく、評価項目から漏れた行政施策の運用にも支障が生じる恐れがあると考えます。

願わくは発注者が企業の貢献意欲を評価し、さらに誘引するために、より多くの貢献活動を評価項目リストに加えて、例えば「このうちの5つの項目をクリアする」といった選択権を企業側に与える仕組みの構築を望むものです。そうすれば、当社に限らず多くの元請建設業者が競って多彩な貢献活動に取り組むことは確実なのです。

「持続可能な人づくり、まちづくり」の多彩な活動が本業に良い影響を与え、その結果、事業継続性も貢献活動の継続性も確かなものになる…そんな時代が早晚やってくることを信じて私たちはさらに取り組みの質を高めていきます。

引き続き、皆さんの温かいご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。



YAMADAGUMI
SPIRITS



YAMADA

株式会社 山田組

本社

〒454-0962

愛知県名古屋市中川区戸田5丁目1213番地

TEL : (052)301-6121 FAX : (052)303-2715

ホームページ

<http://www.yamadagumi.jp/>

E-mail アドレス

kanribu@yamadagumi.jp